



京都教区時報



京都教区広報委員会
 (編集長 村上透磨)
 京都教区本部事務局
 京都市中京区
 河原町通三条上る
 TEL 075-211-3025
 FAX 075-211-3041
 honbu@kyoto.catholic.jp

Home Page <http://www.kyoto.catholic.jp> 4345

2頁～5頁 アジア体験学習 (タイ) 感想文

6頁 教会学校研修会 (講師: 大塚乾隆神父)

点訳版「京都教区時報」〈無料〉
 ご希望の方は点訳ネット「レジナ」代表嶽崎(たけざき)裕子さんまでお申込みください。
 TEL・FAX 079-431-8601

2019年 司教年頭書簡を読む⑨

外国籍の信徒のみなさんへ

「京都教区の外国籍の信徒のみなさん、あなたも、カトリック信仰をもって日本にきたので、特別な意味で宣教師です。」

(年頭書簡)

日本の教会は、宣教師の司祭・修道者だけでなく、外国籍の信徒のみなさんのおかげで、社会を福音化する使命を果たしています。教皇フランシスコは、今年の「世界難民移動者の日」のメッセージで、次のように述べられています。

「親愛なる兄弟姉妹の皆さん、現代の移住現象が抱える課題への対応は、受け入れる、守る、励ます、共生するという四つの動詞にまとめることができます。しかし、これらの動詞は移住者と難民だけに当てはまるものではありません。それらは、受け入れられ、守られ、励まされ、共生することを必要としている、周縁で生活するすべての人に対する教会の使命を表しています。」

これらの動詞を実践するなら、わたしたちは神と人間の国の構築に貢献し、すべての人

の全人的発展を促すと同時に、国際社会が自ら掲げる持続可能な発展という目標へと近づくのを助けることができます。そうした取り組みなしには、その目標の達成は困難なはずです。」

(瀧野正三郎)



アジア体験学習(タイ) 感想文

8月19日から25日までアジア体験学習が実施されました。アジア体験学習はこれまでフィリピンに行っていました。今回は初めてタイに行きました。また、これまででは青年対象でしたが、今回は高校生と青年との合同で実施し、高校生12名、青年(大学生以上)8名が参加し、担当司祭4名とリーダー1名が同行いたしました。



参加者は一人一人、タイの青年とペアを組んで、ホームステイも含めて、期間中一緒に過ごし、交流を深めることができました。ナコンラチャシマ教区の司祭、修道者、信徒の皆さん、そして現地のフィリピン宣教会の方々の全面的な温かいご協力とご奉仕によ

り、恵みの多い体験学習となりました。ことに感謝しております。また、この行事には京都教区からの助成金をいただいております。また、小教区として補助金を拠出してくださった教会も多数あることもお聞きしております。青少年の信仰教育にご理解いただき、快く参加者を送り出してくださった京都教区の皆様に厚く御礼申し上げます。ここに、参加者の感想文をいくつか紹介させていただきます。

(教区青少年委員会)

東舞鶴教会 高校3年

私はこれまで様々な国を訪れたことはあったが、タイを訪れたことはなかった。初めての経験が沢山得られると思いを参加したいと思った。この体験学習は、私の考え方を根本から変えてくれる出来事や、自分の中の神様について深く考える良い機会が豊富にあった。

タイの小さな村でホームステイが始まった時、「不便すぎる生活だ」と率直に感じた。トイレに紙はなく水で洗う、お風呂も冷たい水を浴びるだけ、不安しかなかった。しかし、この村が不便で貧困なわけではない。そう感じたのは

ホームステイ先で抱いた気持ちからだった。ホームステイ先の家族は言葉の通じない人を含めて、4人もの見ず知らずの人間を泊めてくれた。いつも笑顔で、とても手厚くもてなしてくださった。彼らの心の中はとても豊かなのだろうという事が、表情や私へのおもてなしからとても伝わってきた。生活水準と心の豊かさは必ずしも比例するものではない。日本人の生活はとても豊かだが、心はそれに伴っていない人が多いように感じる。この国を貧困という言葉でまとめることはできないと思った。また私たち日本人の生活は便利すぎであり、豊かすぎなのだという事も気づかされた。私たちは、便利すぎるあまり、物を無駄にし、人とのつながりをないがしろにしがちである。これらが神様から私たちに与えられた、お恵みという事をついつい忘れてしまうのだ、と感じた。私は幸いなことにこの体験学習でそのことに気づくことができた。また、様々な人と知り合い言葉を交わした。私の中の神様のお導きによって、この方々と知り合えたことに心から感謝したい。タイの青年たちと行動を共にし、同じ屋根の下で寝て、話す言語は違っても同じミサに与かる、とても素晴らし

い時間を過ごせた。この経験や感じた気持ちは一生忘れてはならないものだ。

この体験学習を終えて。私の人生は、上手くいく事もそうでない事も神様が導いてくださる道中である。人間の作り出した科学技術によって便利になったことは沢山ある。しかし、現代日本では日々忘れてしまいがちだが、私達の便利で豊かな生活は科学技術のみではなく神様の慈悲に支えられている事を心にとめ、神様への感謝を忘れてはならないと思う。私の中でいつも共にいてくださる神様に感謝してこれからの日々を過ごしたい。

大和高田教会 高校1年

今回初めてのタイで緊張していました。が、みんなともすぐに仲良くなれました。タイに着いてから目的地まで3時間以上の道のりでしたが、バスの中では色々な話ができてとても楽しかったです。目的地に着くと、もう夜の12時を過ぎていたのに、タイの子達が歓迎してくれてとても嬉しかったです。次の日はタイの朝ごはんをピータンなどを食べてから、みんなのバディ紹介でした。私はT

oeiちゃんという子でした。それから、ホームステイ先へ向かう途中、バスでバディの子にいろいろなタイの言葉を教えてもらったり、私も日本語を教えあげたりしました。その時わたし達は英語、日本語、タイ語の三ヶ国語を話していたことになるので、今思うと面白いです。そして、バスの中で突然音楽が流れ始めたかと思うと、みんながダンスし始めてクラブにいるような気分でした。目的地に着いて散歩をしたのですが、そこは田舎で、わたしはその村の雰囲気があるとなく好きでした。ホームステイ先に行く時、トラックの荷台に何人かですべて行ってとても楽しかったです。ホームステイ先にはたくさんさんの家畜がいたので、次の日の朝は鶏が鳴いて早くに起こされました。



その日はタイ語のミサに与かりました。それまで知らなかったのですが、バディの子達はキリスト教ではなかったらしく、それでも参加し



てくれたと思うと嬉しかったです。それから、班に分かれてアクティビティがあつて、わたしの班はタイ料理を作りました。タイの子に日本語を教えあげたり、みんなそれぞれの調理方法が面白かったりして、ずっと笑っていました。お昼には、みんなで作ったものを食べました。そのあと、タイの子ども達と鬼ごっこや、折り紙をして遊びました。次の日のアクティビティでは、タイのブレスレットを作りました。タイの楽器を演奏させてもらったり、昨日遊んだタイの子ども達が来て、縄跳びや鬼ごっこをして遊んだりもしました。タイの子ども達とは全然言葉が通じませんが、ジェスチャーをしたり、タイの子が言っている言葉をただ繰り返ししたりして、楽しい時間を過ごせました。その夜、カルチュラナイトがあつて、楽器演奏を聴いたり、タイの伝統的な踊りを見たりしました。私たちも踊ったり歌ったりしました。



次の日には、その村を離れてナイトマーケットに行ったりしました。みんなで過ごす最後の夜だったので、カラオケをしたりダンスをしました。とっても楽し

しかったです。最終日、バディの子達とお別れの日で、みんな泣いていて、とても悲しかったです。別れた後、バンコクに戻ってたくさん買い物をして空港に戻りました。

言葉がしっかり伝わらなくて困ったこともあったけど、そのおかげでもっと仲良くなれたりしたこともあったので、バベルの塔の話で言葉をバラバラにした神様は、こういうことも考えてしてください。さったのかもしれないなと思って、すごいなと思いました。

今回の経験は、本当に良い思い出になりました。ありがとうございます。

小山教会 大学3年

私は今回初めてアジア体験学習に参加させていただきました。タイまで同行する人達も空港で「初めまして」となりま

す。旅に出る最初というものは誰しも不安になるものだ。自分を勇気付け、タイに到着してから、積極的に話しかけて行きました。そうすると、次第に会話が続くようになり、一安心することが出来ました。しかし、その安心と同時に、「タイの子たちには日本語が通じないのではないか。私の拙い英語でどれだけ通じるのか。そもそも英語で大丈夫なのか。」そのような不安が押し寄せてきました。移動中そのようなことを考えるうちに、眠りにつき、気がつくとも目的地に到着していました。

一日目の夜にタイの子たちと泊まっている部屋で初めて交流することができました。私は英語で話しかけられた時に、不安と疲れのせいか簡単な英語で話しかけられたにも関わらず、相手の言っていることが理解できませんでした。この出来事で不安感は一層強くなりました。この不安を拭ってくれたのが私のバディであるDEFTでした。彼は人懐っこい性格

と豊かな表情で私に接してくれ、まるで弟のように交流することができました。そうやって心に余裕が出てくると、英語での会話にも言葉だけでなく表情やジェスチャーを交えることで意思疎通がうまくいくようになりました。私が今回の体験学習で学んだことの一つは、相手とのコミュニケーションを取る時の心の持ち方です。相手をどう思うか、また、相手が自分をどう思っているかで接し方が変わると思います。私はこのことに気づいた時に、神様がこのことを気付かせる為に今回の体験学習の参加まで導いてくださったのではないかと感じました。

ホームステイ先の村で生活しているう



ちに、私は子供達が教会の広場で遊んでいる光景をよく目にしました。私の地元鹿兒島の教会や、現在行っている教会ではそのような光景を目にすることがありません。遊んでいる子供

達を見ていると、私は昔、近所の神社でよく遊んでいたことを思い出しました。その時、教会に対する意識が変わりました。地元では、教会に行くために車で隣町まで行っていました。そのせいなのか、私はこれまでどうしても御ミサに向かう際は、どこか日常を逸脱した場所へと向かうような気持ちでした。それは京都に移ってから変わりました。しかし、今回の体験学習を通して、教会が身近にあると感じる事ができました。タイにいる間、御ミサへ行くのも日常の慣れ親しんだ場所へ向かうように感じ、神様が身近にいらっしゃる事を感じることができました。

以上のような事に気付く事ができ、私にとって非常に素晴らしい経験になりました。今回の体験学習へ参加するきっかけとなった神父様方、小山教会の方々、そして、神に感謝します。

丹後教会 大学3年

私にとって今回が初めての海外でした。行く前は不安な気持ちでしたが、一緒に行ったメンバー、神父様、タイで出会った全ての人たちのおかげで心から

行って良かったと思える体験学習になりました。

タイの人たちは皆私たちを温かく歓迎してくれました。様々な体験を用意してくれたり、タイの伝統文化に触れる機会を作ってくれたりし、自分の目で見て心で感じる事ができました。また、ノリの良いタイの方たちは何事も全力で楽しみ、常に笑っていた印象があります。すぐに「楽しい」をタイの人たちも、日本のメンバーも、みんなが共有していました。日に日にみんなのいい顔が増えていったように思います。また、バディの存在は大きくて、私はバディのガンちゃんに常に引っ張ってもらっていました。

私になかなか理解できない時には、懸命に伝えようとしてくれ、意思疎通できる喜びを感じました。



喜びを感じました。

ホームステイをさせてもらった先のお母さんは、本当に温かい人でした。言葉は通じないけれど、身振りや表情と接してく

れる態度からにじみ出る温かさは居心地が良かったです。一緒にごはんを食べ、川の字になって隣で寝て、目を合わせて挨拶をし、少しでも言葉で会話をし、表情と身振りで会話をしました。たった3日間だけだったけれど、私にとってはかけがえない時間だったと今感じます。最後の夜、お母さんに手首に紐を結んでもらう時、手を握って頭を撫でてくれましたが、お母さんから伝わってくるものに、私は胸がいっぱいになりました。別の朝には「またここにおいで」と伝えてくれました。お母さん、お父さん、息子のアン君に出会えて良かったです。

この体験学習では、また必ず会いたいと思える出会いばかりでした。この体験学習でしか感じる事ができなかったことがたくさんありました。タイでの生活は思い出すたび戻りたくなります。それほど充実したものだのだと感じ、今回アジア体験学習に参加できたこと、素敵な人たちに出会えたことに感謝しています。

教会学校研修会



洗礼のめぐみ

8月31日(土)河原町教会ウィリオンホールにおいて、京都教区教会学校研修会が行われ、19小教区から教会学校リーダー38名が参加しました。テーマは「洗礼のめぐみ」で、大塚乾隆師が講師として指導してくださいました。



研修の冒頭に参加者は、自分にとって「洗礼のめぐみ」が何であるのか考えるため、「どうして洗礼をうけたのか」「洗礼を受けようと思っただけか」「幼児洗礼でずっと教会に継続しているのはなぜか?」などを書き出す作業をしまし

た。その作業の中で、「できごとがあった」ことに気づき、その具体的な状況が浮かび上がってきました。たとえば「つらいときに救われた」、「教会学校が楽しかった」、「すばらしい出会いがあった」……。自分のことをふりかえりながら、その「できごと」こそが、「洗礼のめぐみ」と言えるのではないかと考えました。さらに大塚師は、他の宗教ではなく、なぜカトリック教会に来たのかなど、「洗礼のめぐみ」を広い角度からとらえ、「自分はどのようにして教会へいくのか」をもう一度考えたとき、「イエス・キリストが私にとっての救い主である」ことを受け入れたところからはじまったはずであるとされました。

「自分と洗礼」についてふりかえった後、「洗礼のめぐみ＝秘跡」とはなにかを具体的に知るために、「私にとってのイエスはどんな方か」を「神の国」、「悔い改める」、「信じる」、「罪と回心について(ゆるしの秘跡の観点から)」というテーマで聖書に基づいて学びました。そして、自分の体験やできごとにイエスがどうはたらかれたのか、イエスとはだれか、救いとは何かを考えました。最後



に、「研修会で一番心に残った(響いた)テーマは何か、自分にとっての洗礼のめぐみは何か」についてグループに分かれて分かち合いました。

大塚師は、まとめのお話で聖書の「ザアカイ」(ルカ19・1〜10)の話を取り上げ、イエスに会いに行くこと、回心し、変わることに、イエスを探すこと、イエスについて知ること、イエスについて知するために勉強することが大切であると話されました。

教会学校のリーダーが、まず自分の信仰をふりかえり、秘跡について、子どもたちに伝えるためにどうすればよいかを、具体的に考えることができた一日でした。

(教区信仰教育委員会)

11月のお知らせ

教 区

聖書委員会 / Tel.075(211)3484 (水) (木)

聖書講座

旅する神の民 私たち 皆 寄留人
ー共に住み、共に歩むー

日 時：7日(水) 10:30

テーマ：イエスの過越(栄光への道)

講 師：西 徑一師(神言会)

日 時：28日(水) 10:30

テーマ：旅する神の民

(全世界に行って…私は共にいる)

講 師：鈴木 信一師(パウロ会)

会 場：河原町教会 ヴィリオンホール

よく分かる聖書の学び

日 時：27日(水) 10:30

講 師：北村 善朗師 / 参加費：300円

会 場：河原町教会 ヴィリオンホール

京都教区カトリック正義と平和協議会

フィールドワーク

「下鴨神社・糺の森を歩く」

日 時：30日(土) 13:00~16:00

集 合：叡山電車 出町柳駅改札口

コース：叡電改札口→鴨川公園→妙音弁財天→鴨社資料館秀穂舎(拝観料500円)→河合神社(鴨長明方丈の庵)→糺の森・平安期祭祀遺跡→下鴨神社本殿・御手洗社→大炊殿(拝観料500円)→出町柳駅

案 内：山田 邦和氏(同志社女子大学)

参加費：500円

申込要：詳細はチラシをご覧ください

Tel.075(211)3025(Tel (水)のみ)

Fax.075(211)3041

ブロック

滋賀ブロック

第33回 びわこウォーカーソン

日 時：23日(土) 9:30~13:30

受 付：9:30~10:30 草津教会

ミ サ：10:00~10:40

コース：ミサ後、草津教会から草津川跡地公園及び周りの歩行路を秋の草花を楽しみながら往復(約3.5km)、帰着後 交流会

寄付先：びわこ学園、大津社会福祉協議会、フードバンク滋賀

諸 団 体

カトリック京都働く人の家(九条教会内)

リニューアルオープンハウス

(ミサ後 一日中)

日 時：10日(土) 9:00 ミサ 九条教会

京都カトリック混声合唱団

練 習：10日(土) 14:00 / 場所：洛星宗教研究館

23日(土) 18:00 ミサ奉仕後

/ 場所：河原町教会聖堂

コーロ・チェレステ(女声コーラス)

練 習：14日(水) 10:00 / 28日(水) 10:00

河原町教会聖堂 2階楽廊

心のともしび 番組案内

テレビ(衛星スカパー・ケーブル)スカイ A
毎週土曜日 朝 7:45

シリーズ「自分を深く知るために」

出演は Sr. 小野 恭世(イエズス孝女会)

ラジオ(KBS京都) (水)~(金) 朝 5:55

(土) 朝 5:15

11月のテーマ「歓迎する」

教区広報委員会からのお知らせ

※ お知らせに載せたい情報は、原稿締切り日までに教区本部事務局宛に Fax.075 (366) 6679か honbu@kyoto.catholic.jp に発信者のお名前を明記してお寄せください。

尚、11月より Fax 番号が変更になっています。

※ 2020年1月号の原稿締切り日は11月13日(水)です。

大塚司教の

11月のスケジュール

Schedule of Bishop Otsuka



- 1日(金) 13:30 聖パウロ学園 理事会
- 3日(日) 14:00 衣笠墓苑 物故者追悼ミサ
(衣笠教会)
- 4日(月) 13:00 大和郡山教会 浦上信徒
流配150年記念ミサ
- 5日(火) 10:30 広報委員会(西陣教会)
16:00 青少年委員会(西陣教会)
- 6日(水) 14:00 中央協 予算検討会
- 7日(木) 10:00 中央協 常任司教委員会
- 9日(土) 「Y E S 2019」青年の集い
- 10日(日) 「Y E S 2019」青年の集いミサ

- 13日(水) 14:00 司教顧問会(河原町教会)
17:00 教区司祭追悼ミサ
(河原町教会)
- 17日(日) 10:45 久居教会 献堂50周年 感謝ミサ
- 18日(月) 中央協議会
- 19日(火) 14:00 福音宣教企画室 会議
- 20日(水) 10:30 司祭・司牧者集会
(河原町教会)
15:30 司祭評議会
- 23日(土)-26日(火) 教皇フランシスコ 来日
- 29日(金) 14:00 京都済州姉妹教区交流委員会
(西陣教会)
- 30日(土) 16:00 教区カトリック学校
交流フォーラム

広島平和巡礼に参加して

精華教会 松尾 恵

今回、リーダーとしては2回目、中学生の頃と合わせると4回目の広島平和巡礼でしたが、これまで参加した中で最も印象的な巡礼となりました。

特に印象的だったことは、リニューアルした資料館です。中学生の頃に参加した際、資料館で当時の人々を再現した蠟人形を見ました。とても怖かったことを覚えています。今回、リニューアル後初めて資料館を見学しましたが、蠟人形を見たときは比にならないくらい恐ろしく感じました。特に被爆者の遺品と共に、元気だった頃の被爆者の写真と、亡くなられるときの様子も記されており、周囲からは鼻をすする音が聞こえるほどに衝撃的でいたたまれないものでした。

〔青年センターHP〕 携帯からでもご覧いただけます。 <http://www.kyoto.catholic.jp/seinen/>

そして、これまで何度も広島や戦争について勉強してきたつもりでしたが、改めて自らの無知に気付かされました。

今年はリーダーの数が少なく、炎天下の中外出もするので、子供たちの身に何かあればいけないという責任感やプレッシャーは大きなものがありました。しかし、幸いなことに大きな事故もなく、班の子たちも打ち解けてくれて、また中学生会に来たいと話してくれたことが何より嬉しかったです。

最後に、大塚神父様もおっしゃっていましたが、日韓関係が思わしくなく、各地で日韓交流行事が中止される中、チェジュ教区の方々は日本に来るという選択をしてくれ、こうして共に巡礼できたことがとても嬉しく思います。これからもずっとこの広島平和巡礼を続けることができるようお祈りしたいと思います。



青年センターあんでな